

# ヴェーダ祭式文献: ancient Indian ritual texts BC 1200-500

▶ Indus civilization (~BC1900) インダス文明の衰退

▶ Migration of the Indo-Aryans (BC1500~)

インド・アーリア人の侵入

▶ Rig-Veda BC1200, Atharva-Veda

最古の文献: リグヴェーダ

▶ Maitrayani Samhita BC900~

マイトラーヤニー・サンヒター

▶ Buddha BC6-5C 釈迦

several Vedic  
ritual texts

この時期に  
数々のVeda文  
献が成立する。

## ヴェーダ祭式とはどのようなものか？

「火」への神々の召喚と、神々への讃歌、および、火にくべる供物を通じての、神々との交流。

ソーマ（植物の搾り汁）によって興奮状態を作る。

神々は、自然や社会のつつがなき運行を請け負う。（自然神、機能神）

### 祭式の分類

シュラウタ祭式（複数の祭官を招待して開催する大規模祭式；3つの祭火を使用）

グリヒヤ祭式（個人の家庭で行われる家庭祭）

### さまざまなシュラウタ祭

周期的に行うもの：朝晩の礼拝とミルク献供、新月満月祭、季節祭

新満月祭と季節祭は、献供物は大麦製のパンケーキ

特別に行うもの：ソーマ祭＋動物供犠、火壇積み祭、王の灌頂、

戦車競走

家長は、自分の火を持ち、それを生涯消さずに保ち、すべての祭式をその祭火によって行う。

死後は、その自分の火に焼かれることで、天界に行き、生前積んだ功德に出会うことができると考えられている。

火を保持するために、朝晩、火を崇拜する儀礼を行う。



## 火壇積みの祭式

準備から終わるまで1年。多くの祭官を招いて行う大規模な祭式



火壇の場所に種まきの儀礼を行い、下層に動物と人間の頭を埋める（入植の儀礼？地鎮祭？）

火壇が鳥（鷲）の形をしている。  
天界へ行くため。  
（死後のための祭？）

祭式の起源は様々。いろいろな要素が混ざり込み、複雑。  
土着の宗教の影響も。

# ヴェーダ文献のジャンル

|            |             |                |
|------------|-------------|----------------|
| サンヒター      | saṁhitā     | 祭式で用いる讃歌・祭詞    |
| ブラーフマナ     | brāhmaṇa    | 祭式の説明          |
| アーラニヤカ     | āraṇyaka    | 「森林で学ぶ秘密の教え」   |
| ウパニシャッド    | upaniṣad    | (祭式哲学を基にした) 哲学 |
| シュラウタースートラ | śrautasūtra | シュラウタ祭の説明      |
| グリヒヤースートラ  | gr̥hyasūtra | グリヒヤ祭の説明       |
| ダルマースートラ   | dharmasūtra | 生活規範           |

これら様々なジャンルのヴェーダ文献を「セット」にして各家系（学派）で保持した。

## ヴェーダ文献を伝承する家系（学派）について

大きく分けて4つの学派がある。

この4つは、祭式の時に担う役割の違いに根差している。

hotṛ

神々の召喚、称賛

Ṛg-Veda

udgātr

歌詠（メロディーつき）

Sāma-Veda

adhvaryu

司会進行

Yajur-Veda

brahman

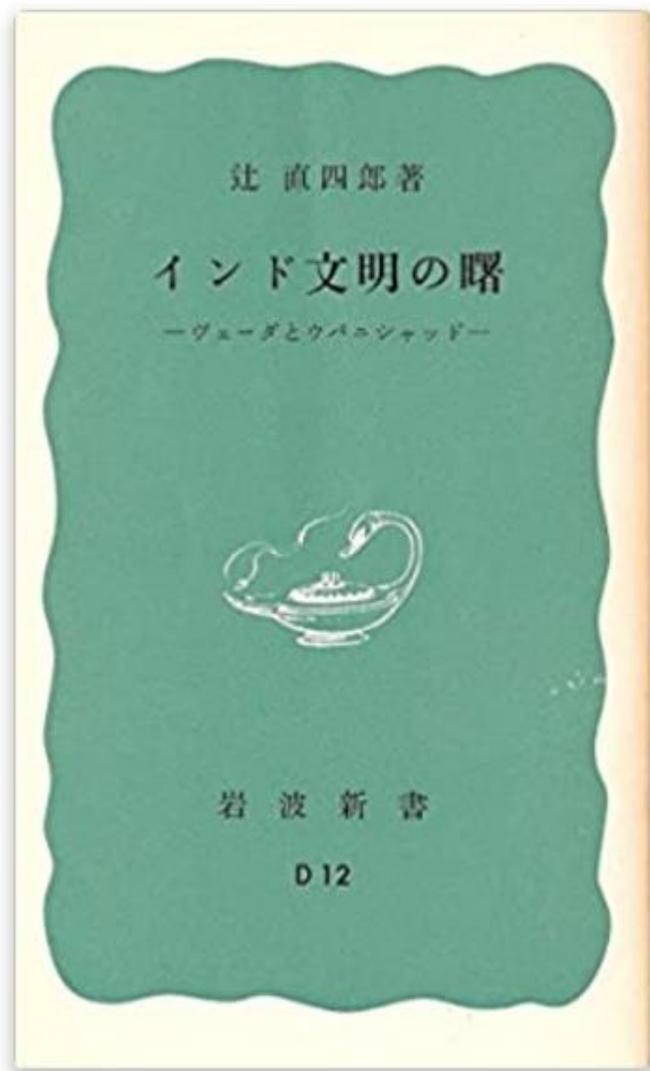
監視、チェック

Atharva-Veda

|          | Ṛgveda   |                        | Yajurveda                  |                   |                      |              |  |                                 |
|----------|----------|------------------------|----------------------------|-------------------|----------------------|--------------|--|---------------------------------|
|          |          |                        | Kṛṣṇa                      |                   |                      |              | Śukla                                  |                                 |
| (Śākhā)  | Śākala   | Bāṣkala, ...           | Kapiṣṭhala-Katha           | Katha             | Maitrāyaṇīya         | Taittirīyaka | V ājasaneyin                           |                                 |
| Samhitā  | Śākala   | Bāṣkala                | Kapiṣṭhala-Katha           | Kāṭhaka           | Maitrāyaṇī           | Taittirīya   | Mādhyandina                            | Kānva                           |
| Brāhmaṇa | Aitareya | Kauṣītaki / Śāṅkhāyana | (Kapisthala-Katha-Samhita) | (Kathaka-Samhita) | (Maitrayani Samhita) | Taittirīya   | Satapatha-(Mādhyandina)                | (Kanva)                         |
| Āraṇyaka | Aitareya | Śāṅkhāyana             |                            | Katha-Araṇyaka    |                      | Taittirīya   | (Satapatha-Brahmana Madhyandina)       | Bṛhad Āraṇyaka-Upaniṣad (Kanva) |
| Upaniṣad | Aitareya | Kauṣītaki              |                            | Kāṭha             | Maitrāyaṇīya         | Taittirīya   | (Satapatha-Brahmana Madhyandina) / Īśa | Bṛhad Āraṇyaka-Upaniṣad (Kanva) |

|          | Sāmaveda                                     |          |   | Atharvaveda                 |            |
|----------|--|----------|---|-----------------------------|------------|
| (Śākhā)  | Rāṇāyanīya                                   | Kauthuma | Jaiminīya   | Śaunaka                     | Paippalāda |
| Samhitā  | Rāṇāyanīya                                   | Kauthuma | Jaiminīya   | Śaunaka                     | Paippalāda |
| Brāhmaṇa | Pañcaviṃśa-Brāhmaṇa =<br>Tāṇḍyamahā-Brāhmaṇa |          | Jaiminīya-<br>Brāhmaṇa<br>= Talavakāra-<br>Brāhmaṇa | Gopatha                     |            |
| Āraṇyaka |  |          |   |                             |            |
| Upaniṣad | Chāndogya- / Jaiminīya- / Kena - Upaniṣad    |          |   | Muṇḍaka / Praśna / Māṇḍukya |            |

# 入門書紹介



## インド文明の曙—ヴェーダとウパニシャッド (岩波新書) (日本語) 新書 - 1967/1/20

辻 直四郎 (著)

★★★★☆ (4個の評価)

› その他 (2) の形式およびエディションを表示する

**新書**

**¥1,242 より**

¥1,242 より 14 中古品の出品

¥10,000 より 1 コレクター商品の出品

# 入門書紹介

古代インドの神秘思想—初期ウパニシャッドの世界 (講談社現代新書 529) (日本語) 新書 -  
1979/1/1

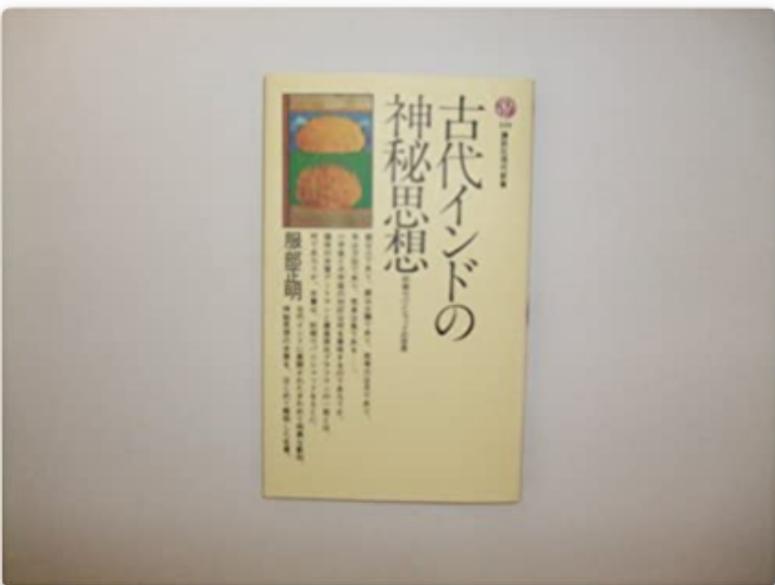
服部 正明 (著)



1個の評価

> その他 (2) の形式およびエディションを表示する

新書



## 入門書紹介

山崎元一 『古代インドの文明と社会』（中央公論社）2009. ISBN:4124034032

前田専學 『インド哲学へのいざない：ヴェーダとウパニシャッド』（日本放送出版協会）2000. ISBN:4140841265

インドの夢・インド  
の愛  
—サンスクリット・  
アンソロジー—  
上村 勝彦/宮元 啓一  
(編)

春秋社 (1994/02)

目次

- 第1章 神々の原風景—ヴェーダ
- 第2章 宇宙を操る祭式—ブラーフマナ
- 第3章 隠された原理—ウパニシャッド
- 第4章 インド精神の元型—叙事詩
- 第5章 増殖する古伝承—プラーナ
- 第6章 流出する世界—哲学
- 第7章 小宇宙としての自己
- 第8章 輪廻と主宰神
- 第9章 神となる道—タントラ
- 第10章 様々な意匠—古典文学
- 第11章 生きる目的—ダルマ・アルタ・カ  
ーマ
- 第12章 醒めた眼差し—占星術・医学
- 第13章 聖化された空間—建築
- 付章 『ギータ・ゴーヴィンダ』と細密画—  
美術

## ヴラーティア(Vratya)について：古代インド研究の最先端

「リグヴェーダが最も古く、その次がアタルヴァヴェーダ」と言われるが、アタルヴァヴェーダを作った人々のほうが、先にインドに来て、土着の文化と融合しながら独自の信仰・生活スタイルを保っていた。リグヴェーダの権威は、ある意味政治的なもの。

### アタルヴァヴェーダを作った人々：ヴラーティア

- ・男性のみのグループで集団生活を行う習慣（若集組）
- ・集団生活は修行的、禁欲的。瞑想や哲学議論を行ったか。
- ・集団生活は一年周期。締めくくりには特別な儀礼および「打ち上げ」のような無礼講。
- ・ルドラ（シヴァ神の原型）信仰。リグヴェーダとは違う「山の神」。